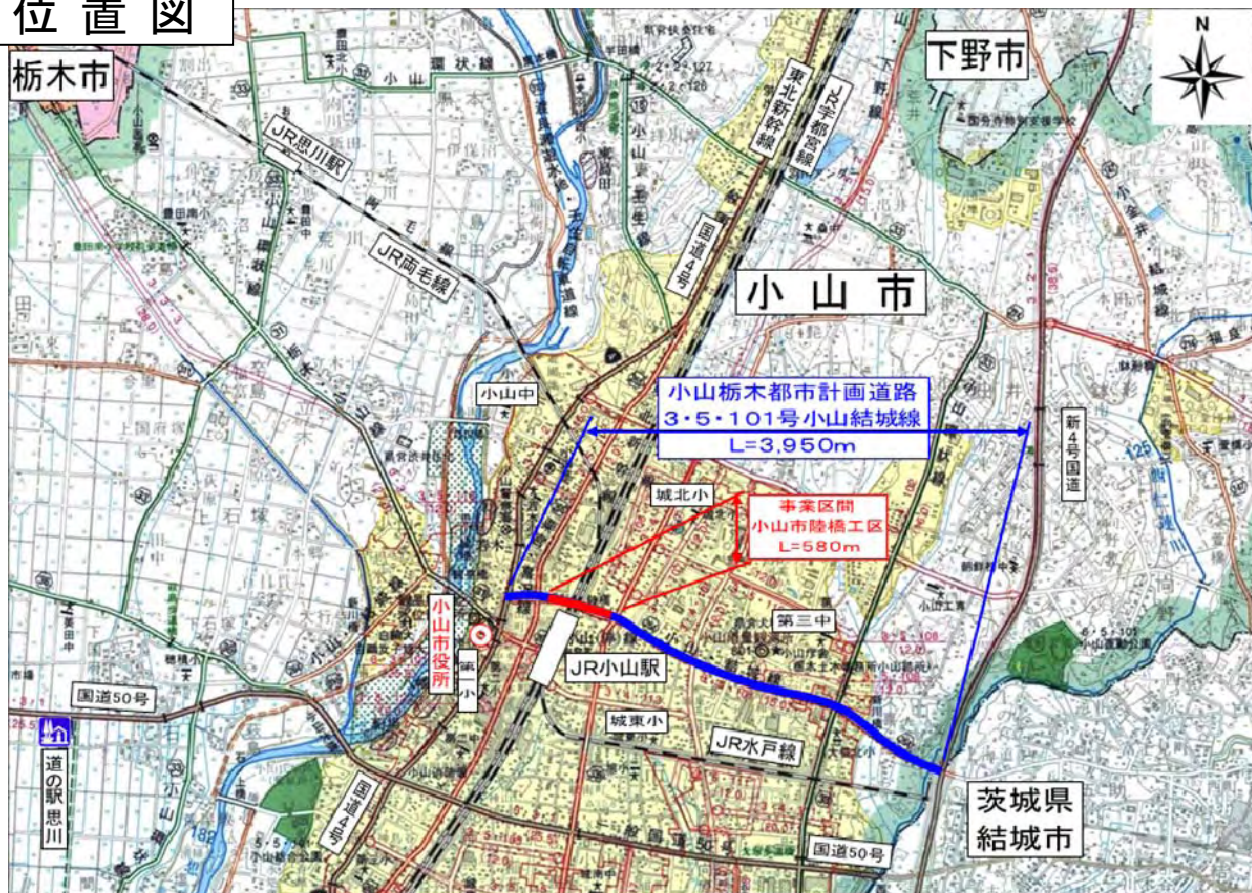


街路事業の再評価概要書

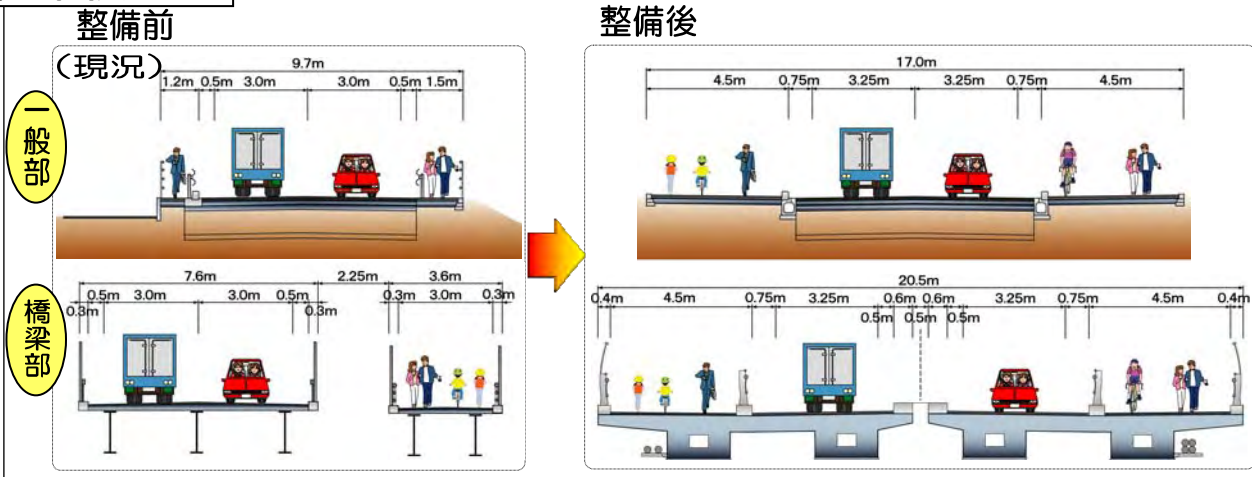
街路事業の再評価概要書			番 号	115
			事業主体	栃木県
事業名	街路づくり事業		事業所管課	県土整備部 都市整備課
路線・河川名	小山栃木都市計画道路 3・5・101号 小山結城線 <small>おやまゆうきせん</small>		事業箇所名	おやましりくぼし 小山市 陸橋
事業区間	おやましほんごうちょう 小山市本郷町から おやましえきひがしどおり 小山市駅東通り		事業延長	580m
H14年度 事業化	S19都市計画決定 (H14年度変更)		H14年度 用地着手	H15年度 工事着手
事業期間	H14年度～H26年度		基準年次：【平成23年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[9.1億円] 40.0億円		事業進捗状況	進捗率 [うち用地補償費] [8.4億円] [92%] 既投資事業費 37.4億円 94%
事業概要				
<p>小山栃木都市計画道路3・5・101号小山結城線は、小山市中心市街地の東西軸として、都市活動を支え都市の骨格をなす道路であり、JR小山駅周辺の環状機能を有する都市内幹線道路である。</p> <p>本整備区間の陸橋は、老朽化が顕著なうえ、JR宇都宮線により東西に分断された市街地を連絡する跨線橋であるため交通が集中し、右折レーンの不足などにより、慢性的な交通渋滞が発生している。</p> <p>また、歩道が狭隘なために、特に、朝夕においては、JR小山駅や周辺の中学校・高校などへの通勤通学として利用する自転車・歩行者が輻輳し、車道側にはみ出して走行するなど危険な状況となっている。</p> <p>以上のことから、良好な市街地の形成を促進するため、陸橋の架替えと現道拡幅の整備を実施し、安全性の向上と交通の円滑化を図るとともに、安全で快適な自転車・歩行者空間を確保する。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
特に無し				
事業の投資効果				
<p>1 費用対効果分析結果 【総便益 (B)】 【総費用 (C)】</p> <p>(1) 事業全体 B/C= 1.3 57.8億円 45.2億円</p> <p>(2) 残事業 B/C= 19.9 47.8億円 2.4億円</p> <p>2 事業の整備効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した陸橋の安全性の向上 ・交通渋滞緩和と交通の円滑化 ・自転車・歩行者の安全で快適な通行空間の確保 ・鉄道により分断された東西市街地の連絡強化 				
事業の進捗状況等				
<p>1 事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸橋架替え区間(約40m)は、平成21年度に完成した。 ・残る現道拡幅区間(約540m)については、用地の取得及び工事を推進している。 (うち東側残区間(約330m)については、平成23年度末に供用予定) <p>2 今後の事業進捗の見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は残る区間の用地の取得及び工事の推進し、平成26年度完成を目標に全線供用を図る。 				
コスト縮減等				
<p>1 コスト縮減方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生骨材、再生アスファルト合材を積極活用しコストを低減 ・当該工区の建設発生土を他工事に再利用しコストを低減 ・水道管埋設工事との同時施工による、掘り返し工事の削減 <p>2 代替案立案等の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の諸手続きを経て、ルート、車線数及び幅員を決定し、事業を実施している。また、大部分の用地を既に取得していることなどから、代替案立案は困難である。 				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

事業箇所（位置図・概要図）

位置図



標準横断面図



概要図

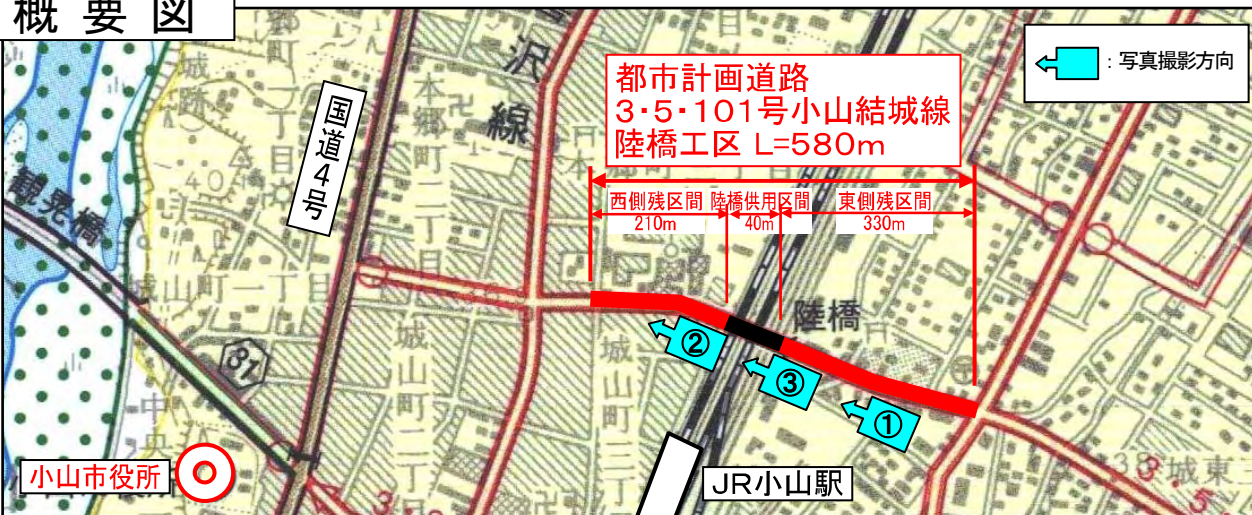




写真1：夕方の慢性的な交通渋滞状況



写真2：歩道狭隘区間の危険な状況



写真3：陸橋区間の歩道状況 (H19. 6 部分供用)